

# 小学校 算数

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

小学校算数科の目標を、(1)知識及び技能、(2)思考力、判断力、表現力等、(3)学びに向かう力、人間性等の三つの柱に基づいて示すとともに、それら数学的に考える資質・能力全体を「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して」育成することを目指すことと示されている。

【算数において育成すべき資質・能力】		
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
◇数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などの理解 ◇日常の事象を数理的に表現・処理する技能 ◇数学的な問題解決に必要な知識	◇日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道を立てて考察する力 ◇基礎的・基本的な数量や図形の性質や計算の仕方を見いだし、既習の内容と結びつけ統合的に考えたり、そのことを基に発展的に考えたりする力 ◇数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力	◇数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、数学的に考えることや数理的な処理のよさに気づき、算数の学習を進んで生活や学習に活用しようとする態度 ◇数学的に表現・処理したことを振り返り、批判的に検討しようとする態度 ◇問題解決などにおいて、よりよいものを求め続けようとし、抽象的に表現されたことを具体的に表現しようとしたり、表現されたことをより一般的に表現しようとするなど、多面的に考えようとする態度

### (2) 実施上のポイント

#### ①改訂のポイント

- 数学的に考える資質・能力を育成する観点から、実社会との関わりと算数・数学を統合的・発展的に構成していくことを意識して、**数学的活動の充実等**を図った。
- 社会生活など様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力の育成を目指すため、**統計的な内容等の改善・充実**を図った。

#### ②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- 数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習を指導計画に適切に位置付けることが大切である。

主体的な学び	児童自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする学び
対話的な学び	数学的な表現を柔軟に用いて表現し、それを用いて筋道を立てて説明し合うことで新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことでよりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにしたりするなど、自らの考えや集団の考えを広げ深める学び
深い学び	日常の事象や数学の事象について、「数学的な見方・考え方」を働かせ、数学的活動を通して、問題を解決するよりよい方法を見いだしたり、意味の理解を深めたり、概念を形成したりするなど、新たな知識・技能を見いだしたり、それらと既習の知識と統合したりして思考や態度が変容する学び

### ③見方・考え方について

○事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

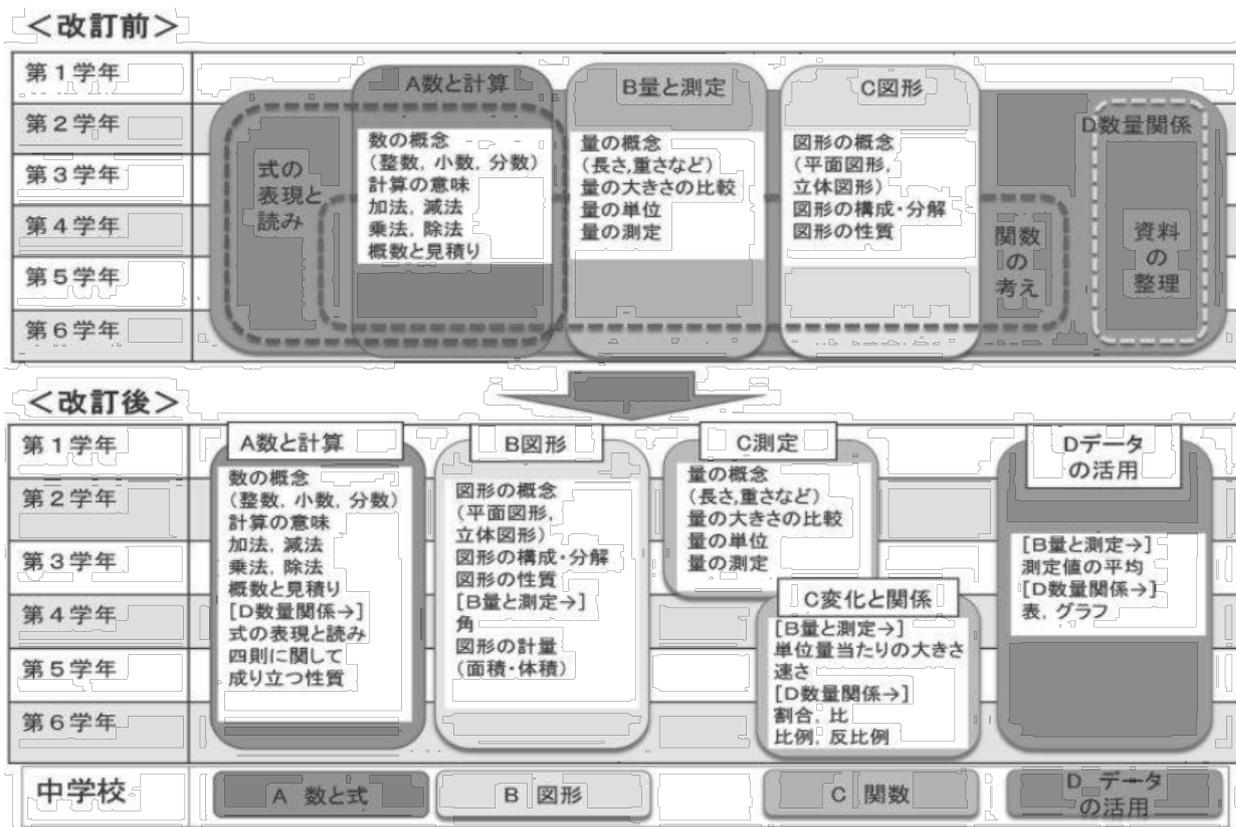
見方 (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇数量、大きさや量に着目する。</li> <li>◇形に着目する。</li> <li>◇集団の傾向や変化の様子などを捉えるために統計的なデータに着目する。</li> </ul>
考え方 (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇具体物や図、式などを用いて考える。</li> <li>◇比較する。測定する。</li> <li>◇概念を形成したり性質を見いだしたりするために相異点と類似点を考える。</li> <li>◇目的に応じて表現するのに適切なグラフは何かを考える。</li> </ul>

### ④内容領域の見直しについて

内容の系統性や発展性の全体を、中学校数学科との接続をも視野に入れて整理された。

○改訂前の「D 数量関係」のうち「資料の整理」を「D データの活用」の領域として、「関数の考え」を「C 変化と関係」の領域として分離独立し、「式の表現と読み」を「A 数と計算」に含める。

○改訂前の「B 量と測定」のうち、「図形の角」と「面積や体積に関わる内容」を「B 図形」領域へ、また「異種の二つの量の割合」を「C 変化と関係」領域へ移動し、「測定値の平均」を「D データの活用」領域へ移動する。



## ⑤移行措置について

平成30年度	第3学年	3(7)のうち「接頭語(キロ k)や(ミリ m)についても触れる」	規定の適用
	第4学年	第3学年の3(7)のうち「接頭語(キロ k)や(ミリ m)についても触れる」 2B(4)イ(ア)のうち「面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察する」	規定の適用 追加
平成31年度	第3学年	3(7)のうち「接頭語(キロ k)や(ミリ m)についても触れる」	規定の適用
	第4学年	2A(4)ア(ア)ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知ること 2B(4)イ(ア)のうち「面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察する」	追加
		2C(2)ア(ア)簡単な場合について、ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることを知ること	
	第5学年	2B(4)イ(ア)のうち「体積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察する」 2C(2)ア(ア)速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること	追加
		現行学習指導要領2A(4)カに規定する事項 乗法や除数が整数である場合の分数の乗法及び除法の意味について理解し、計算の仕方を考え、それらの計算ができること	

## 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

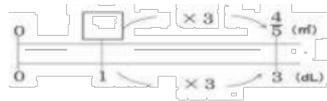
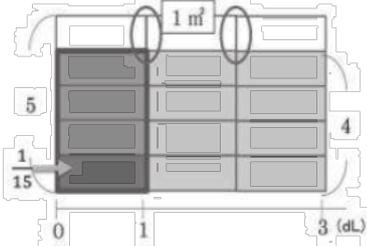
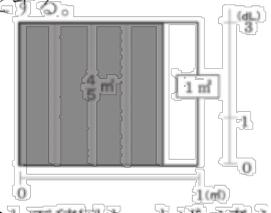
### (1) 単元構成 (一部) 「分数(2)」(第5学年)

時間	ねらい	学習活動	主体的・対話的で深い学びの視点
1	乗数が整数である場合の分数の計算の意味や仕方を、図などを使って考え説明することができる。	(分数) × (整数) の計算の意味や仕方を数直線や面積図等を使って考える。	<p>【主体的な学びの視点】 分数は整数や小数のようにかけたり、割ったりできるだろうかという課題意識や既習内容を使って課題を解決する見通しをもつことができるようにする。</p> <p>【対話的な学びの視点】 計算の意味や仕方を説明し合う活動を設定し、考えを広げたり深めたりする。</p>
2 (本時)	除数が整数である場合の分数の計算の意味や仕方を、図などを使って考え説明することができる。	(分数) ÷ (整数) の計算の意味や仕方を数直線や面積図等を使って考える。	<p>【深い学びの視点】 単位分数のいくつ分かを考える際、割り切れない場合を設定し、なぜ、分母に除数をかければよいのかを式や図等を使って説明し合うことで考えを深めることができるようにする。</p>

単に「分数÷整数の場合、分母に除数をかければよい」ことが分かればよいのではなく、「わり算なのになぜ分母に除数をかけるのか」を理解することが深い学びにつながります。既習事項を振り返り、同じ大きさの分数にすることや面積図を使って考えること等、見通しを立て、対話的な学びを通して、実際に使えたことを実感できるような授業改善が求められます。



(2) 「面積図や式を使って考え、既習の内容と結び付け統合的に考える」授業展開例

学習内容	発問と予想される児童の反応	教師の支援
<p>1 問題を把握する</p> <p>3 dL で、<math>\frac{4}{5}</math> m<sup>2</sup>ぬれるペンキがあります。このペンキ 1 dL では何 m<sup>2</sup>ぬれますか。</p> <p>2 めあてを設定する</p> <p>3 計算の仕方を考える</p> <p><b>【10の視点】</b> ⑦学習評価の推進</p>	<p>・わり算かな？</p> <p>○なぜ、わり算になると思いましたか。</p> <p>・1 dL あたりを求めるから</p> <p>・数直線をかいてわり算かどうか確かめてみたい</p> <p><math>\square \times 3 = \frac{4}{5}</math>だから <math>\square = \frac{4}{5} \div 3</math></p>  <p>分数÷整数の計算の仕方を考えよう。</p> <p>・もとになる分数のいくつ分か考える</p> <p>・<math>\frac{4}{5}</math>が(4÷3)個では計算できない</p> <p>・面積図を使って考える</p> <p>・面積図の1マスは<math>\frac{1}{15}</math>?それとも<math>\frac{1}{12}</math>?</p>	<p>・数直線を提示し、わり算になる根拠や答えが<math>\frac{4}{5}</math>より小さくなることを確認するよう促す。</p> <p>・前時のかけ算の学習との相違点や共通点を確認し、めあてを児童から引き出す。</p> <p>・<math>\frac{4 \div 3}{5}</math>と考えている場合、分数の性質を使って3で割り切れるように計算できないか考えるよう促す。</p> <p>・面積図を縦に3等分することにつまずく児童には、1 m<sup>2</sup>を横軸にした図を準備しておき横に3等分して考えることができるようにする。</p>
<p>児童のつまずきを想定し、「同じ大きさの分数」「面積図」等、既習事項を使って考えることができるよう支援することが大切です。 (ポイント) 数量の関係に着目して、計算の意味と方法について考察する</p>		
<p>4 計算の仕方について話し合う</p> <p><b>【10の視点】</b> ⑤説明・発表の機会の充実</p> <p>もとにする分数について、式や面積図を関連させながらまとめにつなげることが大切です。 (ポイント) 式や面積図を使って考えを伝え合い、既習の内容と結び付け統合的に考える</p>	<p>・<math>\frac{4}{5}</math>の分母と分子に3をかけて同じ大きさの分数で考える <math>\frac{4}{5} \div 3 = \frac{4 \times 3}{5 \times 3} \div 3 = \frac{12}{15} \div 3</math>として、<math>\frac{1}{15}</math>が(12÷3)個と考えればよい</p> <p>・1 m<sup>2</sup>の<math>\frac{4}{5}</math>を3つに分けるから1 m<sup>2</sup>全体を分けないといけないと思う</p> <p>・1 m<sup>2</sup>を5×3で15に分けるので図の1マスは全体の<math>\frac{1}{15}</math>と思う</p> <p>○式の考えでできた5×3や4×3、<math>\frac{4}{15}</math>は面積図のどこにありますか。また、どちらの考えにも共通することは何ですか。</p> 	<p>・式と面積図をつなげて考えることで、2つの考えを関連付けてまとめる。</p>  <p>・数を変えても式や図で考えたことが成り立つか問う。</p>
<p>5 適用題をする</p> <p>6 振り返る</p> <p><b>【10の視点】</b> ⑦学習評価の推進 ⑧学習を振り返る活動の設定</p>	<p><b>まとめ</b></p> <p>・もとになる分数のいくつ分か考える</p> <p>・<math>\frac{\Delta}{\square} \div</math> 整数は、<math>\frac{\Delta}{\square \times \text{整数}}</math>で計算できる。</p> <p>①<math>\frac{5}{7} \div 3</math> ②<math>\frac{3}{5} \div 9</math></p> <p>面積図や式を使ってもとになる分数のいくつ分かを説明しましょう。</p> <p>(例) 面積図と式で考えるときはどちらも、もとになる分数のいくつ分か考えることがポイントでした。友達の見解を聞いて、式で考える方法は、割り切れるように<math>\frac{3}{5}</math>を<math>\frac{6}{10}</math>にすれば計算できると分かりました。</p>	<p>・学習したことのポイントや自分の考えの変容等について具体的に振り返るよう促す。</p>
<p>話し合った方法を全ての児童が自分の言葉で説明したり、適用題に活用したりすることができているかを評価することが大切です。また、学んだことを使えるように、学習のポイントを自分の言葉でノートに書いたり、分かったことを友達と交流したりする場を設定することも大切です。 (ポイント) 適用題を自分の力で解くことができているかを評価する 期待する児童の振り返りを具体的に想定しておく</p>		

## 1 教育課程実施上のポイント

### (1) 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

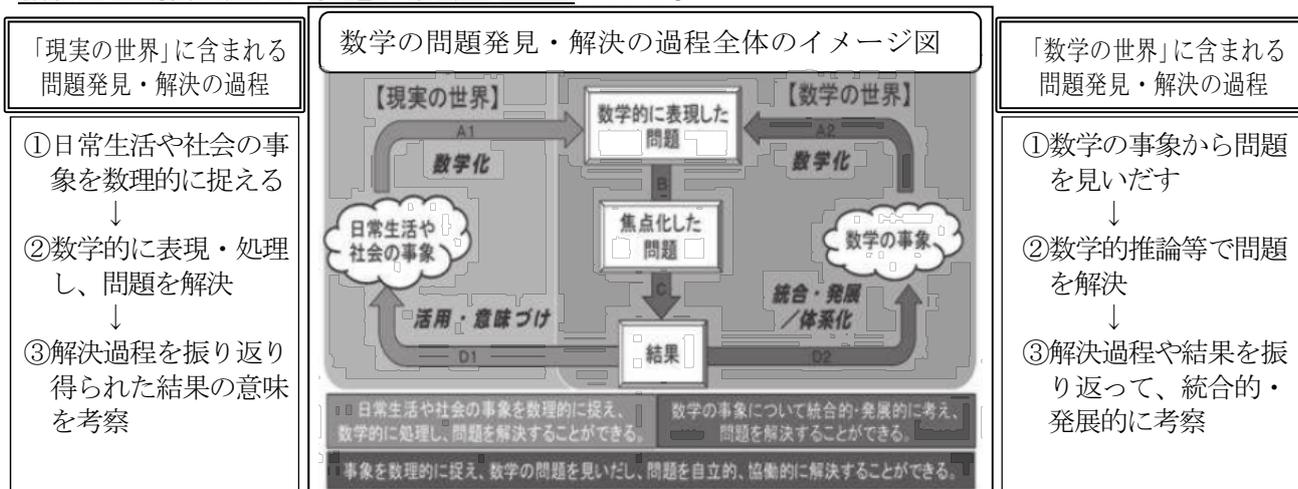
- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

数学科の目標は、「**数学的な見方・考え方を働かせ**」、「**数学的活動を通して**」、(1)～(3)にある「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理された資質・能力を育成することを目指すことと示された。

【数学において育成を目指す資質・能力】		
知識・技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
◇数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解 ◇事象を数学化したり、数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能 ◇数学的な問題解決に必要な知識	◇日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察する力 ◇既習の内容を基にして、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力 ◇数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力	◇数学的に考えることよき、数学的な処理のよき、数学の実用性などを实感し、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度 ◇問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 ◇多様な考えを認め、よりよく問題解決する態度

### ○数学的活動について

「**数学的活動**」とは、**事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行することである。**



※**数学的活動は、生徒が主体的に取り組むものであり、その機会を意図的、計画的に設けることが大切。**

<b>中学校数学科で重視する数学的活動</b>	ア 日常の事象や社会の事象から問題を見だし解決する活動 イ 数学の事象から問題を見だし解決する活動 ウ 数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動
-------------------------	---

## (2) 実施上のポイント

### ①改訂のポイント

- ◇数学的に考える資質・能力を育成する観点から、問題発見・解決の過程を学習過程に反映させることを意図して数学的活動の一層の充実を図った。
- ◇社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりする能力を育成するため、統計的な内容等の改善・充実を図った。

### ②主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善のポイント

- ◇数学的な見方・考え方を働かせながら、事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習が充実されるようにすることが大切である。

主体的な学び	生徒自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする
対話的な学び	事象を数学的な表現を用いて論理的に説明したり、よりよい考えや事柄の本質について話し合い、よりよい考えに高めたり事柄の本質を明らかにしたりする
深い学び	新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付けてそれらを統合し、思考、態度が変容する

見方・考え方が働いているかどうか「深い学び」となっているかどうかの鍵になります。



### ③見方・考え方について

- ◇事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。

見方 (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 事象を数や数量に着目して捉える。</li> <li>◇ 事象を「形」「大きさ」「位置関係」に着目して捉える。</li> <li>◇ 事象の中にある数量の関係を見だし、既習の関数と仮定して捉える。</li> <li>◇ 複雑な事象をデータ化して捉える。</li> </ul>
考え方 (例)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 式などに表現して形式的に処理したり、直観的に操作したりするとともに、論理的、統合的・発展的に考える。</li> <li>◇ 順序よく考えたり、場合分けして考えたりする。</li> <li>◇ 適用範囲を広げたり、条件を変えたりして考える。</li> </ul>

### ④移行措置について

学年	領域	内容	年度
1 学年	A 数と式	(1) 正の数・負の数 「素数の積」を追加	H31 年度 H32 年度
	D 資料の活用	(1) 資料の散らばりと代表値 「累積度数」を追加 「誤差や近似値、 $a \times 10^n$ の形の表現」を省略	
			「統計的確率」を追加
2 学年	A 資料の活用	「四分位範囲」及び「箱ひげ図」を追加	H32 年度

### ◇箱ひげ図

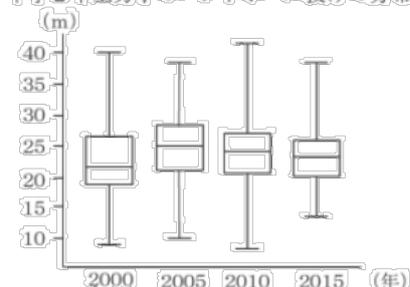
二つ以上のデータを比較する際に、視覚的に比較がしやすい統計的な表現。

次のように、最小値、第1四分位数、中央値（第2四分位数）、第3四分位数、最大値を箱と線（ひげ）を用いて一つの図で表したものの。

23 24 25 26 26 29 30 34 39



中学2年生男子のハンドボール投げの分布



## 2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導展開例

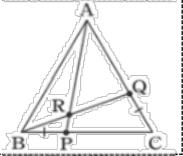
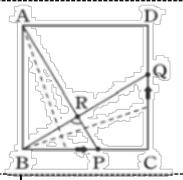
### (1) 単元構成（まとまり） 「三平方の定理」

時間	ねらい	学習活動	主体的・対話的で深い学びの視点
4	三平方の定理の逆を理解し、それをを用いてある三角形が直角三角形であるかどうかを見分けることができる。	いろいろな三角形が直角三角形になるかどうかについて、直角三角形と判断できる理由を考える。 直角三角形になるかどうかを三平方の定理の逆を根拠に判断する。	【主体的な学びの視点】 既習内容を確認しながら、課題を解決する見通しを持たせる。
5	三平方の定理を利用して、長方形の対角線の長さや正三角形の高さ等を求めることができる。	長方形や正三角形から直角三角形を見だし、三平方の定理を利用して、対角線の長さや高さを求める方法を説明する。	【対話的な学びの視点】 課題解決の際、解き方や考え方を説明する活動を設定し、考えを広げたり深めたりする。
6	三平方の定理を利用して、座標平面における2点間の距離を求めることができる。	座標平面に直角三角形を見だし、三平方の定理を利用して、2点間の距離を求める方法を説明する。	【対話的な学びの視点】 課題解決の際、解き方や考え方を説明する活動を設定し、考えを広げたり深めたりする。
7	山頂から見渡せる範囲を求めるときに、直角三角形を見だし、三平方の定理を利用して求めることができる。	大山から見渡せる範囲を考え、説明する。	【深い学びの視点】 三平方の定理を身の回りの問題に活用する。

1 単位時間の授業だけではなく、単元等のまとまりの中で、主体的に学習に取り組めるよう学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面をどこに設定するか、対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面をどこに設定するか、学びの深まりをつくりだすために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、といった視点で授業改善を進めることが求められます。



(2)「証明した事柄を用いて、新たな性質を見だし発展的に考えさせる」授業展開例

学習内容	発問と予想される生徒の反応	教師の支援
<p>1 前時の振り返り</p> <p>2 正三角形において条件を保ったまま図形の形を変えながら観察し、変わらない性質を予想する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【10の視点】 ②体験的な学習の充実</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>条件を保ったまま図形の形を変えて観察したり、複数の図形の辺の長さや角の大きさを実測したりすることで、成り立つ事柄を予想することが大切です。 (ポイント)「形や大きさに着目して捉える」という見方が働いているかどうか。</p> </div>	<p>◇前時の証明を振り返る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>正三角形ABCの辺BC、CA上にBP=CQとなる点P、Qをそれぞれとり、線分APと線分BQの交点をRとすると、<math>\angle BAP = \angle CBQ</math>となる。</p> </div> <div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>前時に、<math>\triangle ABP \equiv \triangle BCQ</math>となることから、<math>\angle BAP = \angle CBQ</math>となることを証明しました。BP=CQの関係を保ったまま、点Pと点Qを動かしたとき、どのようなことがいえそうか考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>\angle BAP</math>と<math>\angle CBQ</math>の大きさは大きくなっていく。</li> <li>・APとBQの長さは変わるが、AP=BQは成り立つ。</li> <li>・<math>\angle APB = \angle BQC</math>になる。</li> <li>・<math>\angle BRP</math>の大きさは変わらない。 ⇒<math>60^\circ</math></li> </ul>	<p>教師の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを操作して点P、Qを動かしながら予想させる。</li> <li>・実際に図をかいて<math>\angle BRP</math>の大きさを確かめるよう促す。</li> </ul>
<p>3 予想した事柄が成り立つかどうか考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>予想した事柄が成り立つ理由を筋道立てて考え、証明できるように指導することが大切です。 (ポイント)「根拠を明らかにする」という考え方が働いているかどうか。</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「<math>\angle BRP</math>の大きさが一定である」と予想したことが、<u>いつでも成り立つことを証明</u>してみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>\angle BAR = \angle CBR</math>なので、  <math display="block">\begin{aligned} \angle BRP &amp;= \angle BAR + \angle ABR \\ &amp;= \angle CBR + \angle ABR \\ &amp;= \angle ABC = 60^\circ \end{aligned}</math> </li> <li>・BPの長さに関係なく<math>\angle BRP</math>の大きさは一定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に証明した<math>\angle BAP = \angle CBQ</math>を利用できることを助言する。</li> </ul>
<p>4 「<math>\angle BRP</math>の大きさが一定である」ことの証明を振り返り、条件を変えて考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【10の視点】 ⑤説明・発表の機会の充実</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>正三角形で成り立つ事柄が正方形の場合でも成り立つかどうか考え、それを説明する場面を設定することが大切です。 (ポイント)「発展的に考える」ことができているかどうか。</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>正方形に変えて正三角形のときと同じように点を結んで考えてみた場合、<math>\angle BRP</math>の大きさについて同じようなことがいえるか考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正三角形は一定になるけど、正方形は一定にならない。</li> <li>・<math>\triangle ABP</math>と<math>\triangle BCQ</math>は合同になる。</li> <li>・<math>\angle BRP</math>の大きさは<math>90^\circ</math>で一定になる。</li> </ul>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形の場合も<math>\angle BRP</math>が一定になるかどうかについて、レポートにまとめることを伝える。</li> </ul>

ポイントを参考に、数学的な見方・考え方を働かせているか、「深い学び」になっているかどうか、授業の見直しを図りましょう。



【参考】平成29年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例